



今年も多くの人々の協力で、盛大に開くことができた内子笹まつり。「たくさん笑顔が見たい——」と伝統の祭りを守り続けている実行委員会の皆さんの願いは、2万人の心に届いたようです。

62回目を迎えた「内子笹まつり」は8月6・7の両日、内子本町商店街で行われました。約40本の笹飾りで彩られた商店街を、2日間で約2万人が訪れました。台風の接近で心配された雨は降らず、時折強い風が笹飾りを揺らせて、子どもたちを喜ばせていました。

笹飾り



内子高校 郷土芸能部



HOP★STAR



フレッシュパークからり



フィットネスクラブRyuow



真美組

26連・10498人が参加した「笹踊りコンクール」。それぞれの衣装や振り付けで商店街を踊り歩き、多くの観客を魅了しました。笹踊り大賞は、学校部門が「内子小学校」、一般部門が「甘日市自治会」、創作部門が「HOP★STAR」でした。

笹踊り



寺村山の神 火まつり

8月16日、六角山の下に幻想的に浮かび上がる「山ノ神」と「令和元年」の火文字、「オヒカリ」と呼ばれる約5,000個の灯りがともされました。寺村山の神火まつりは200年近く続く伝統行事で、山の幸と秋の豊作を祈る想いが込められています。たくさんの花火が上がり、里山の夜空を彩りました。

小田 燈籠まつり

7月27日、平家の落人伝説にちなみ先祖の霊を供養する夏祭り。牛車、絵燈籠、太鼓台などが小田中央商店街を練り歩き、夏の訪れを告げます。清盛寺住職による供養の読経が山里に響く中、小田川に1,000個の燈籠を流して故人の魂を弔います。登貴姫も登場し、川面に幻想的な光景が浮かんでいました。